

令和4年度

第3回

三鷹市健康福祉審議会 会議録（要旨）

1 日 時	令和4年11月18日（金）PM7:00～8:10
2 会 場	教育センター 大研修室
3 出席委員 （16人）	宇井義典（会長）、和田敏明（副会長） 内原正勝、香川卓見、神崎恒一、小玉充、嶋田正和、杉山一延、平呉夫、 竹内美佐子、竹川健太郎、中澤敏、中柴和子、三上京子、山本真実、 吉野勇
4 市側出席者 （13人）	小嶋義晃（健康福祉部長）、馬男木由枝（健康福祉部調整担当部長）、 近藤さやか（保健医療担当部長）、嶋末和代（地域福祉課長）、 立仙由紀子（障がい者支援課長）、荻野るみ（障がい者相談支援担当課長）、 大高俊彦（高齢者支援課長）、竹内康真（介護保険課長）、 川口真生（生活福祉課長）、小島美保（保健サービス担当課長）、 山口和昭（新型コロナウイルスワクチン接種担当課長）、 鈴木清一（住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業推進室長）、 秋山慎一（子ども政策部長）
5 会議の公開 ・非公開	公開
6 傍聴人数	0人
7 会議次第	1 会長あいさつ 2 報告事項 （1）障がい者・高齢者等の生活と福祉実態調査について （2）福祉Laboどんぐり山（仮称）プロジェクトについて （3）三鷹市自殺対策計画の改定について （4）新型コロナウイルス感染症に係る対応の検証について （5）新型コロナウイルスワクチン接種事業について （6）電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金事業について （7）その他 3 その他
8 資料	〔配付資料〕 （1）令和4年度第3回三鷹市健康福祉審議会次第 （2）令和4年度第3回三鷹市健康福祉審議会（席次表） （3）福祉Laboどんぐり山（仮称）プロジェクト事業案内（案） 【資料2差替】 （4）新型コロナウイルスワクチンの接種状況について【資料5追加】 〔事前送付資料〕 （1）令和4年度障がい者等実態調査（概要）について【資料1-1】 （2）令和4年度高齢者等実態調査（概要）について【資料1-2】 （3）福祉Laboどんぐり山（仮称）プロジェクト事業案内（案）【資料2】 （4）三鷹市自殺対策計画の改定について【資料3】 （5）新型コロナウイルス感染症に係る対応の検証について【資料4】 （6）新型コロナウイルスワクチン接種資料【資料5】 （7）「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業」について【資料6】 （8）令和4年度第2回三鷹市健康福祉審議会会議録（要旨）（案）

[開 会 (午後7時00分)]

1 会長あいさつ

省略

2 報告事項

(1) 障がい者・高齢者等の生活と福祉実態調査について

【障がい者支援課長】

(事前送付資料 (1) に沿って報告)

【介護保険課長】

(事前送付資料 (2) に沿って報告)

(質疑応答)

【副会長】 高齢者の方で、調査の委託先の訪問面接調査実施機関がシルバー人材センターとなっていますが、調査員がシルバー人材センターで得られる見通しですか。また、調査員についての研修のようなことを実施しますか。

【介護保険課長】 シルバー人材センターの会員の方を中心に調査員を引き受けていただき、研修については、委託会社のナレッジ・マネジメント・ケア研究所が中心に研修を行っています。

(2) 福祉Laboどんぐり山 (仮称) プロジェクトについて

【健康福祉部調整担当部長】

(配布資料 (3) に沿って報告)

(質疑応答)

【委員】 民間企業が入ってくる際の研究予算はどのような形で設けますか。例えば、PFIのように、民間企業の原資を使い、行政と民間を合わせた予算のつ

くり方もありますが、そのような方法ですか。

【健康福祉部調整担当部長】 まず、どのような形で研究を進めていくかが課題になっています。研究センターは、資料に記載のとおり、基本的にはハブ的な組織で考えていますので、フィールドにつなげていくことを想定していますが、細かい部分は都度、企業、研究者、大学等とどのような形が良いか相談しながら進める予定です。可能であれば、基本的には研究費を活用していただいて、私どもができることは、フィールドの紹介やつなげていくこと、そして、三鷹市民の方に還元できようような何かを研究開発していただくことを想定しています。

【委員】 研究・人財育成連携事業所はいつスタートしますか。

【健康福祉部調整担当部長】 研究について連携できそうなどころには声かけをしていますが、正式に発信できるのは設置条例が可決され、事業の方向性をしっかり示すことができるタイミングになり、その後、こちらから営業をかけていく考えです。

【委員】 だいぶ先のように感じますが、いかがですか。

【健康福祉部調整担当部長】 いえ、今度の12月に市議会に諮ります。

【委員】 山形県鶴岡市の研究施設を見に行きましたが、民間企業との連携で大きな研究機関を動かしていました。三鷹市もそのような手本となる行政を見に行っただ方が良いと思います。

【健康福祉部調整担当部長】 ありがとうございます。近隣で先進的なところは拝見しましたが、参考になるので、タイミングが合えば視察したいと思います。

【会長】 積極的に研究を展開している場所というのは、例えば東京でしたらどこになりますか。

【健康福祉部調整担当部長】 研究というのではなく、人財育成の面で、世田谷区や武蔵野市を視察しました。その中で、研究的なことも実施していますので、必ず研究に結びつけるというよりは、人財育成センターというところから発信して研究につなげていく等、できるところから実施していきたいと考えています。

【会長】 研究というと少しハードルが高くなりますが、やはり大学と連携していくことが大事だと思います。

【委員】 実際に何かが始まらないとイメージが湧かないというのが今の感想です。ハードができていることは素晴らしいことだと思います。今度は具体的な内容、必ずしも研究ではないという話ですが、例えば、生活リハビリセンターには多く部屋があります。そこで、どのような人がどのような目的で利用するのかイメージが湧かないため、実際に動き出して再検討すること等が必要だと感じています。

【健康福祉部長】 ありがとうございます。私どもも、一生懸命準備を進めているところです。市内には、杏林大学やルーテル学院大学等、幾つかの大学があります。そうした市内及び近隣の大学とも連携しながら、進めていきたいと考えています。

また、先ほど説明させていただきましたが、今度の12月議会には設置条例を出す予定です。その条例の中に、3年を目途に内容を見直していくという規定も盛り込む予定です。皆様にもご意見をいただき、見直ししながら進めていきたいと考えています。

(3) 三鷹市自殺対策計画の改定について

【保健医療担当部長】

(事前送付資料 (4) に沿って報告)

(質疑応答)

【委員】 少し慎重に検討された方が良いのではないかと考えています。自殺総

合対策大綱の「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」の中に、「子ども・若者への支援や若者の特性に応じた支援の充実」とあり、さらに、「SNS等を活用した相談事業支援の拡充、ICTを活用した情報発信を推進」となっていますが、文部科学省が義務教育の学校にICTの端末が全員に行き渡るようにした結果、クラス内で誹謗中傷のいじめが増えました。その影響で不登校になり、場合によっては自殺する可能性も高まる状態になってしまいます。子どもたちにICTの間違った使用方法をしてはいけないとどのように教育するかが、現在、大問題になっています。もう少し検討された上で文言を選ぶのが良いと思います。

【保健医療担当部長】 ありがとうございます。ご指摘いただいたところは、国の自殺対策大綱の概要をまとめた部分なので、これを三鷹市の方で、基本的に教育委員会中心になると思いますが、どのように取組むかという点は、これから落とし込んでいくことになります。国はこのような方向性を出していますが、実際に教育、学校で子どもを前に、端末も使いながら、誤った使い方や認識等をどのようにしていくかというのは、これからよく詰めていきたいと思っています。

【会長】 電子端末を使うなどと言っても、この時代では不可能です。蓋をすること自体が不可能であり、ましてや、自殺請負サイトの存在等、そのような人がいること自体が想定外です。そのため、そのようなことをしてはいけないと、子どもにどのように伝えていくかが大事だと思います。

【委員】 大変難しい状況にある中で、自殺しないようにするという対策の意味合いで書かれていると思いますが、やはり子どもが自殺を考えないようにする、つまり、生きていくことが楽しいとか、夢を持つとか、先に向けて生きる力をつけるということも含めて、子どもが伸び伸びと幸せに暮らしていける社会をつくるということが前提として必要とされています。この大綱や計画だけで何かするというだけでなく、全体の取組の中で、子どもだけでなく親にも教えながら、生まれてきた命を大切に、守っていくことを三鷹市でどのようにするか併せて行う必要があります。それぞれ個別の対策をしても、困難であると思います。私自身もそのようなところに関わっておりますので、ぜひ次の計画にも関わっていききたいと思いま

た。

【健康福祉部長】 私どもも、自殺対策計画を策定しますが、この計画が自殺を防ぐ全てではなく、全ての施策が自殺対策になっていくだろうと考えています。生きるための支援というものは、子どもだけでなく、障がい者、高齢者、それぞれの計画の中での一つ一つの施策をしっかりと進めることが、一人一人の生きていく力、命の大切さにつながると考えており、こうした自殺対策計画をつくるとともに、それぞれの計画もつくり、その施策をしっかりと進めていくということが重要だと考えています。

【委員】 2023年から「生命の安全教育」を小学校で実施することが義務化されることが決まっていると思いますが、皆様方の意見と私も同じで、一人一人の命が大事だということを、小学校の先生からもどのような形で小学生に教育していくか取り組んでいくと良いと思います。助産師会でも命の教育はしており、何かあれば協力いたします。

【委員】 根本的なことを申し上げますと、この自殺対策計画の改定の改定案は何を推進しますとか、何に取り組みますというWhatが書いてあります。いかにしてそれを推進したら良いか、どのようにして手厚くサポートするのか、ケアするのかという、Howがどこにも書いていないため、何を推進するかというお題目だけが書いてあるように見えます。やはり、自殺というのは非常にデリケートな問題で、精神や心の問題にもつながるため、Whatだけ書いて、三鷹市の政策をこのように改定しましたと言われても、それでは心に響かないと思います。

【健康福祉部長】 今回、改定案ということで示しましたが、計画に当たっては、この基本施策に基づき、それぞれの施策を明示していく中で、一つ一つの施策が自殺防止対策につながっていくということを明示するとともに、職員もそのような意識も持ち、様々な業務に対応していくということも考えているので、計画に落とし込む際には具体的な施策を盛り込んでいきたいと考えています。

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る対応の検証について

【保健医療担当部長】

(事前送付資料 (5) に沿って報告)

【委員】 先日、検証委員会の委員の方々と保健医療担当部長を交え、意見交換をさせていただきました。

(5) 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

【新型コロナウイルスワクチン接種担当課長】

(事前送付資料 (6)、配付資料(4)に沿って報告)

【委員】 オミクロン株は、小児や乳幼児の接種が進むと、流行が収束すると思えますが、高齢者の接種が順調に進んでいるため、重症化予防という意味では一定の効果が期待できると思えます。

(6) 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金事業について

【住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業推進室長】

(事前送付資料 (7) に沿って報告)

(質疑応答なし)

3 その他

(1) 次回の予定

令和4年度第4回健康福祉審議会は、令和5年2月中旬に開催予定。

[閉 会 (午後8時10分)]